

決算説明会

業績概要

2008年度 第3四半期 決算

(2008年4月1日～2008年12月31日)

2009年1月30日(金)

代表取締役社長 庄田 隆



第一三共株式会社

■Ranbaxy社の連結決算への取り込み

企業結合日	2008.11.07
連結上みなし取得日 (取り込むB/S)	2008.10.01 (2008.10.20の増資分を加味)
B/S・P/Lへの影響	B/S : のれんの計上 P/L : のれんの償却 B/S・P/L: のれんの減損

- 取得原価につきましては、現在、公正価値に基づく配分作業等を行っており、今後、会計監査を経て2008年度本決算にて確定いたします。

2008年度 第3四半期実績（前年同期との比較）

（単位：億円、金額上段は対売上高構成比）

	2007年度 第3四半期（4-12月）実績				2008年度 第3四半期（4-12月）実績			
	①	非医薬品事業	欧州子会社決算期変更	特殊要素除外後②	③	Ranbaxy社のれん償却	除：Ranbaxy関連④	実質比較④-②
売上高	100.0% 6,958	100.0% 254	100.0% 141	100.0% 6,563	100.0% 6,276		100.0% 6,276	-287
売上原価	26.1% 1,817	89.2% 227	25.7% 36	23.7% 1,555	24.0% 1,508		24.0% 1,508	-47
販管費	34.5% 2,403	11.5% 29	58.7% 83	34.9% 2,291	39.8% 2,496	55	38.9% 2,441	150
研究開発費	16.8% 1,170	2.7% 7	2.3% 3	17.7% 1,160	20.6% 1,292		20.6% 1,292	132
販管費計	51.4% 3,573	14.3% 36	61.0% 86	52.6% 3,451	60.4% 3,788	55	59.5% 3,733	282
営業利益	22.5% 1,568	-3.4% -9	13.3% 19	23.7% 1,558	15.6% 981	-55	16.5% 1,035	-522
経常利益	23.9% 1,660	-3.4% -9	15.4% 22	25.1% 1,648	14.8% 932	-55	15.7% 987	-661
当期純利益	13.9% 964	-6.3% -16	14.3% 20	14.6% 960	-47.5% -2,978	-3,595	9.8% 617	-343

*本資料では、2007年度までにグループ外化した非医薬品事業の業績、並びに欧州子会社の決算期変更による影響を特殊要素としてとらえています。従いまして、実質的な比較を容易にするために、これらの影響を除外した業績を特殊要素除外後として表示しております。

3

 第一三共株式会社

増減の理由（前年同期との実質比較）

1. 連結売上高 6,276億円（-4.4%, -287億円）

- 円高、薬価改定、販売権返還等の影響が大きく、減収となったもののオルメサルタンを軸に数量拡大。

- オルメサルタン (+179億円) ● エビスタ (+69億円) ● ロキソニン (+42億円)
- ヴェノファー (+22億円) ● プラバスタチン (-118億円) ● レボフロキサシン (-100億円)
- オフロキサシン (-57億円) ● パナルジン (-43億円) ● 販売権返還 (-110億円) 他

2. 連結営業利益 1,035億円（-33.5%, -522億円）

- 売上高287億円の減に対して、売上総利益は240億の減（原価率23.7→24.0%）
- 販管費 (+150億円)
 - 欧米子会社事業基盤拡充 (+96億円) ● 単体退職給付費用 (+55億円)
 - U3 Pharmaのれん償却 (+25億円)
- 研究開発費 (+132億円)
 - アライアンス費用拡大 (ArQule) ● 開発課題進展 (denosumab, CS-8958等)

3. 経常利益 987億円（-40.1%, -661億円）

- 営業利益から減益幅が139億円拡大
 - 営業外収益の減 (-27億円) 単体における平均運用残高の減、海外子会社運用利回り低下
 - 営業外費用の増 (+122億円) 為替評価損、米子会社擬似ストックオプション評価損

4

 第一三共株式会社

2008年度 業績予想

(単位：億円、金額上段は対売上高構成比)

	2008年度 業績予想						対10月公表 差異
	修正予想 (10月公表) ①	最新予想 (2009年1月)					
			Ranbaxy社 10-12月 実績見込 (US GAAP)	Ranbaxy社 のれん償却	除:Ranbaxy 関連②	対前同	②-①
売上高	100.0% 8,400	100.0% 8,500	100.0% 400		100.0% 8,100	-240	-300
売上原価	24.4% 2,050	25.5% 2,170	52.5% 210		24.2% 1,960	-70	-90
販管費	39.9% 3,350	41.7% 3,545	38.8% 155	110	40.5% 3,280	145	-70
研究開発費	21.4% 1,800	21.0% 1,785	6.3% 25		21.7% 1,760	136	-40
販管費計	61.3% 5,150	62.7% 5,330	45.0% 180	110	62.2% 5,040	282	-110
営業利益	14.3% 1,200	11.8% 1,000	2.5% 10	-110	13.6% 1,100	-451	-100
経常利益	13.5% 1,130	8.1% 690	-62.5% -250	-110	13.0% 1,050	-621	-80
当期純利益	7.7% 650	-37.2% -3,160	-27.5% -110	-3,650	7.4% 600	-351	-50

*対前年同期比較は特殊要因を除外した実質比較

5

 第一三共株式会社

MEMO

6

 第一三共株式会社

主要製品の状況

(単位：億円)

商品名	2007年度 第3四半期 実績	2008年度 業績予想			2008年度 第3四半期 実績				
		修正予想 (10月時点)	最新予想 (2009年1月)		第3四半期 実績	対前年同期増減			
			差異	差異		進捗率	単純比較	実質比較	
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	1,507	2,180	2,125	-55	1,622	76.3%	115	179
	レボフロキサシン<合成抗菌剤>	851	1,020	995	-25	751	75.5%	-100	-100
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	619	605	605	0	485	80.2%	-134	-118
日本	カルブロク <高血圧症治療剤>	78	140	130	-10	94	72.1%	15	15
	アーチスト <高血圧症治療剤>	165	220	230	10	170	73.9%	5	5
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	97	140	140	0	99	70.9%	2	2
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	262	400	410	10	304	74.1%	42	42
	オムニパーク <造影剤>	251	290	290	0	226	77.9%	-26	-26
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	40	85	85	0	57	66.9%	17	17
	ヴェノファール <貧血治療剤>	230	305	315	10	252	79.9%	22	22
米国	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤>	176	260	250	-10	192	76.7%	15	15

注：決算期変更により2007年度第3四半期はDSEについて、2007年1月～2007年12月の12ヶ月分を計上。
また、これらによる影響を除外した増減額を実質比較として表示。

7

 第一三共株式会社

主要製品の状況（現地通貨ベース）

		2007年度 第3四半期 実績	2008年度 第3四半期 実績		
			第3四半期 実績	対前年同期	
				実質比較	伸長率
第一三共 Inc.<米国> (百万ドル)	Benicar / Benicar HCT	585	659	74	12.7%
	Azor	16	62	46	288.0%
	Welchol	150	186	36	24.0%
第一三共ヨーロッパ GmbH <欧州> (百万ユーロ)	Olmotec / Olmetec Plus	190	184	35	23.3%
	Sevikar		9	9	-
ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc.<米国> (百万ドル)	Venofer	196	245	49	25.0%

注：決算期変更により2007年度第3四半期はDSEについて、2007年1月～2007年12月の12ヶ月分を計上。
また、これらによる影響を除外した増減額を実質比較として表示。

8

 第一三共株式会社

参考情報: Ranbaxy社の業績 (インド会計基準)

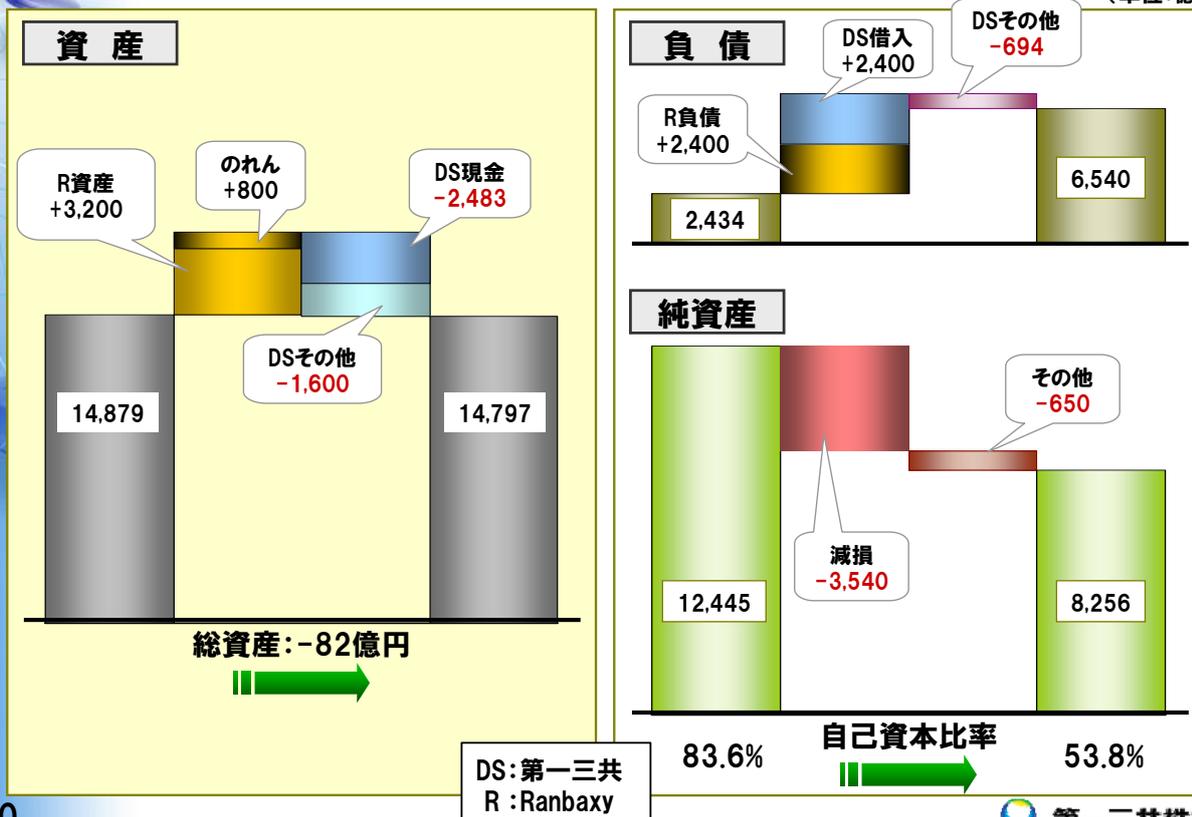
(Millions of US dollars, ratio to sales)

	2007 Results audited		2008 Results non-audited	
	Oct-Dec	Jan-Dec, '07	Oct-Dec	Jan-Dec, '08
Net Sales	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	451	1,619	387	1,667
EBT (Earnings Before Taxes)	13.1%	14.9%	-62.5%	-19.2%
	59	242	-242	-320
EBT without special factors				
	36	112	41	131

■ 為替差損などの特殊要因を除いては、利益成長を堅持。

バランスシートの状況

(単位: 億円)



研究開発パイプラインの変化（10月以降）

■ 新規追加

- ARQ 197
- ▶ c-Met阻害剤（P2）

■ ステージの進捗

- Sevikar（欧）
 - ▶ オルメサルタンとアムロジピンの配合剤（申請中→発売）
 - CS-866AZ（日）
 - ▶ オルメサルタンとアゼルニジピンの配合剤（P3→申請中）
 - シロドシン（中）
 - ▶ 排尿障害治療剤（P3→申請中）
 - DU-176b（Global）
 - ▶ 経口抗Xa剤（P2→P3）
 - CS-8958（日）
 - ▶ 抗インフルエンザ（P2→P3）
 - CS-7017（米）
 - ▶ PPAR γ 性抗がん剤（P1→P2）
 - Act-Hib（日）
 - ▶ アクトヒブ（承認→発売）
 - Kuban（欧）
 - ▶ 塩酸サプロプロテリン（BioMarine:申請中→承認）
- （日本での販売名 ビオブテン）

■ 開発中止

- CS-8080
- ▶ 動脈硬化性疾患治療剤（臨床試験において、所期の基準を満たさなかったため）
- CS-088
- ▶ オルメサルタン緑内障（臨床試験において、所期の基準を満たさなかったため）

最重点研究開発課題 ① Effient/Efient

■ ACS-PCI（経皮的冠動脈形成術後の急性冠症候群）

米国 2009年 2月3日

FDAが心血管用薬・腎臓用薬諮問委員会（Cardiovascular and Renal Drug Advisory Committee）の開催予定

欧州 2008年12月18日

欧州CHMPが承認勧告

■ ACS-MM（経皮的冠動脈形成術を伴わない急性冠症候群）

2008年 6月 Phase3開始

最重点研究開発課題 ② DU-176b

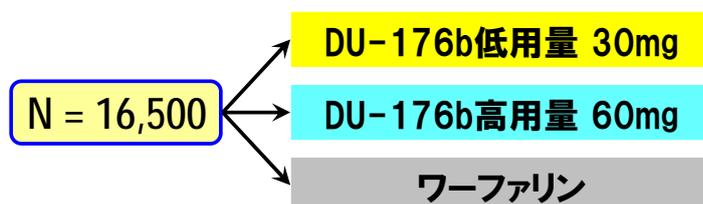
■ VTE（血栓塞栓症の予防）

P2b終了、P3準備中

■ AF（非弁膜性心房細動の血栓塞栓症予防）

厳格な用量設定試験を完了し2008年11月よりP3開始

- 対照薬:ワーファリン
- 1日1回投与



主要開発品目一覧表

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請中
循環器	・DB-772d	・オルメテック/ 利尿剤合剤 (#)	・DU-176b ・ <u>フラスケレル (ACS-MM)</u> ・ <u>CS-8635</u> ・オルメテック効能追加 (#) ＜糖尿病性腎症＞	・ <u>フラスケレル (ACS-PCI)</u> ・オルメテック/ カルブブロック合剤 (#)
糖代謝	・CS-1036 (#)		・リホ'グリタゾン	
感染症			・レホ'フロキサシン注 (#) ・CS-8958	・レホ'フロキサシン 高用量 (#)
がん	・U3-1287	・ニモツ'マブ' (#) ・CS-1008 ・ARQ 197 ・CS-7017		
免疫・アレルギー	・CS-0777	・SUN 13834		
骨・関節			・ <u>Denosumab (#)</u> ・ロキソニンゲル (#)	
その他		・ヒトクレリン	・メマンチン塩酸塩 (#)	・フェロン/リハビリン 併用療法 (#) ・シロトシン
合計	4	7	10	5

- グローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- アンダーライン(青字)は現在の優先プロジェクト
- #: 日本でのみの開発

インドへ/からの期待

研究・開発



- 有能な人材
- 政府のインセンティブ
- 治験環境



巨大マーケット

- 特許制度
- 経済成長
- 人口



コスト優位性

- 高度な製薬技術
- 良質な労働力

複眼経営

- 相互の従来型ビジネスに新たな視点を加えた複眼経営
- 一体となったガバナンス/独立のオペレーション、シニア グローバル マネジメント

ランバクシーの
目を通して
新たな価値/機会
を創出



RANBAXY
LABORATORIES LIMITED

第一三共の
目を通して
新たな価値/機会
を創出

第一三共主催 主要イベントの予定

内容	日付
RD説明会	2009年3月31日(火) 14:00-16:00 於：経団連会館
第一三共 2008年度決算	開示 - 2009年5月12日(火) 13:00 説明会 ・5月13日(水) 13:00 報道関係者向 ・5月13日(水) 15:00 投資家/アナリスト向

MEMO

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

つくっているのは、希望です。



第一三共株式会社